

平成28年度特集展示(会期：平成28年7月12日(火)～9月11日(日))
新収藏品展示



絵葉書にみる福岡の風景

Kyushu Historical Museum Exhibition guide

1 新収蔵の絵葉書

昨年、九州歴史資料館の所蔵資料に、約100点の絵葉書が加わりました。個人の方より寄贈いただいたもので、戦前の福岡の観光地などを写したものです。20世紀前半の福岡の風景を今に伝えるこれらの絵葉書からは、当時の景観が現在までにどのように変化したかを知ることができます。たとえば、大宰府政庁跡を写した絵葉書の景観は、一見現在と変わらないように見えますが、現在は3本建っている正殿上の石碑が2本しか写っておらず、変わらないように見える景観にも若干の変化を見出すことができます。逆に、福岡市の西中洲にある記念公園(水上公園)の絵葉書では周囲の景観はほぼ全て変わっていますが、よく見ると左端には丸い塔を備えた旧日本生命保険九州支店の建物(福岡市赤煉瓦文化館として現存)があり、変化の激しい都市の中にならぬ景観を見出すことができます。



大宰府政庁跡絵葉書(石碑が2本なのは大正3年まで)



記念公園(水上公園・福岡市西中洲)絵葉書

2 絵葉書の題材

それでは、この絵葉書から見てくる福岡県の姿を、3つの地域別に見ていきましょう。これらの絵葉書からは景観の変化に加え、戦前どのような場所が観光地として注目されていたのかも、知ることができます。

(1) 史跡地太宰府とその周辺

今回の新収蔵の絵葉書の中で最も目立つのは、九州有数の史跡の街である太宰府とその周辺を写したもので、全体のおよそ3分の1を占めています。この地は古代、九州全体を統括する大宰府が置かれ、律令体制下最大の地方都市として繁栄していました。さらに10世紀、都から左遷されてこの地で亡くなった菅原道真が、学問の神として崇敬されるようになると、天神信仰の拠点ともなっていくます。

この太宰府を写した絵葉書ではまず、菅原道真の祀廟である太宰府天満宮(戦前は太宰府神社)や道真が暮らした場所である榎社(榎寺)、道真が登って天に自らの無実を訴えたと伝えられる天拝山など、天神信仰に関する名所が目立ちます。さらに、^{かまど}竈門神社や観世音寺、そして近世から史跡としての保護や顕彰が図られていた大宰府政庁(都府楼)の跡も絵葉書に登場し、観光の対象となっていたことがわかります。

(2) 県都福岡市の姿

福岡市は明治22年(1889)、久留米市とともに福岡県最初の市として成立し、今日に至るまで福岡県の拠点都市として成長を続けてきました。古代からの貿易都市、博多の伝統を受け継ぐこの街には、^{はごぎ}筥崎宮や香椎宮など、長い歴史を持つ寺社があり、名所として絵葉書の題材になっています。

一方で、近代都市としての整備も進んでいた福岡市には、東公園・西公園をはじめとする多くの公園も造成され、新しい時代の市民の憩いの場となっていました。福岡市の絵葉書には、寺社など前近代から受け継がれた名所とともに、公園など近代に生み出された名所も写されており、近代都市における観光地の多様性を知ることができます。

(3) 県内それぞれの風景

近代の福岡県は、太宰府が史跡の街、福岡市が県都として歩み続ける一方、北九州は工業地帯が広がる街、筑豊や三池は産炭地、筑後平野は農村地帯として発展するなど、一口では語れない多様な面を持っていました。

こうした多様さは、県内各地を写した絵葉書にも反映されています。写された景観をみると、数量としては宮地嶽神社や宗像大社など、由緒ある寺社が多いですが、その他にも史跡や公園が見られます。また温泉に関しては、現在も知られる武蔵(二日市)温泉、原鶴温泉のほか、かつて産炭地飯塚の人々を癒した椿温泉の絵葉書があります。

さらに若松港の石炭積込の光景や八幡製鉄所の貯水池など、北九州工業地帯に関する景観を写した絵葉書も存在し、さまざまな場所が福岡県の観光名所として絵葉書の題材に選ばれていたことがわかります。



太宰府・観世音寺講堂絵葉書
(右側には、昭和26年に別の場所に移設された鐘楼が見える)



福岡市西公園から見た玄界灘
(埋め立て前は、公園は直接海岸に接していた)

3 絵葉書の年代

今回紹介する絵葉書を含め、日本の絵葉書の多くには発行年の表記がなく、正確な製作年代の特定は困難です。しかし、絵葉書の宛名面を見ると、時代によってその体裁が少しずつ変化しており、これをもとに一定の年代推定を行うことが可能です。戦前の場合は、原則として次の4期に分類できます。

(I) 明治33年～明治40年：宛名面に通信欄なし

(II) 明治40年～大正7年：3分の1が通信欄に

(III) 大正7年～昭和8年：2分の1が通信欄に

(IV) 昭和8年～：「郵便はかき」が「郵便はがき」に

ただし実際の記載にも例外があり、この原則から外れていることもあります。なお戦後に入ると、それまで右から書いた「郵便はがき」の文字が、左から書くように変化しています。また一部の絵葉書には軍の検閲が行われ、その日付が記されたものもあります。

(学芸調査室 渡部邦昭)



福津市・宮地嶽神社の正面絵葉書
(鳥居とその奥の階段の景観は、現在でもほぼ同じ)



北九州市・養福寺貯水池
(北九州工業地帯の中核・八幡製鉄所のための貯水池)



編集 発行：平成28年7月12日

九州歴史資料館
KYUSHU HISTORICAL MUSEUM

〒838-0106 福岡県小郡市三沢 5208-3
TEL 0942-75-9575 FAX 0942-75-7834
URL <http://www.fsg.pref.fukuoka.jp/kyureki/>